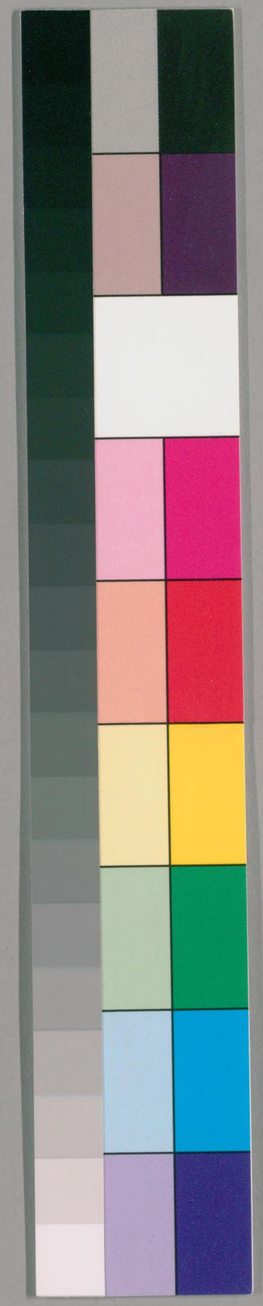
七福神考

862
61



国立国会図書館　タイトル『七福神考』 請求記号 862-61

ガラス使用

七福神考

862-61

国立国会図書館　タイトル『七福神考』　請求記号 862-61

ガラス使用

福神考

江戸　北皐山本時亮編輯
門人　山田直温校訂

大辨財天　並宇賀神
大辨財天と略名ふ　能與總持大智慧聚大辨
財天と称ふ

光明經ニ曰廣宣流布シ乃至得聞是經ヲ當ニ令ム是等悉ク得セ
猛利不可思議大智慧聚不可稱量福德之報ヲ云云
最勝王經ニ云辨財天為閻浮之長妙
又云在ニ坎窟及ヒ河邊ニ云云

国立国会図書館　タイトル『七福神考』　請求記号 862-61
ガラス使用

是故に水邊小さき祠祭る安藝嚴島の類これ也
竹生島ハ神系圖に姨踊鞠五十鈴姨命ありやし
又審鎮要記みな天鈿女命と申ふ辨財天や事
嚴島ハ市杵島姫の神ありり
宇賀神といふこと佛説みて宇賀神經ありとあ
是辨財天に同體異名としてをふ類ひ
本朝ハ宇介神と稱なふみほして宇介や宇介
の轉語すまいへふことにぬ
國朝上古すべて五穀の和語を宇介といへり
宇氣と云又食のことみもいへり

日本紀曰稲魂和名宇加乃美太万俗云宇加乃美太万今ふ宇加
神ハそと宇介魂みしめて前ふふウケウカの
轉語すまい出るなり
又保食神和名宇介毛知乃加美
宇氣者食之義也言是保
舊事紀云御食持神者神皇産霊尊よまい出たまふと故
等の遠祖ありさ初のまバ保食御食持同稱みし
宇宇介神ゐ神皇産霊尊よまい出たまふと故
あまた神皇産霊尊ゐ小さき萬物の精霊みして霊
徳自レ天降りあまへふよし古記の本説おまい

国立国会図書館　タイトル『七福神考』　請求記号 862-61
ガラス使用

神代傳受記ニ云ク保食神ヲ稚産靈ノカ一ノ児ヲ
ハ里神道大要ニ云人道ハ以テ衣食ヲ二而為ス肝要ト也稚産靈神生于蠶桑五穀也衣食ノ祖ハ此神ヲ
又宇賀魂トハ素盞烏尊ノ御子ヲ
神祇拾遺ニハ倉稲魂ハ陰陽二神ノ所生也有テ二
神而同名同字也素盞烏尊ノ御子宇賀魂神ヲ
伊勢調御倉神稲荷等是也神代私説ヨリ同名
異職男女ノ異アリトハ
丹波風土記ニハ伊弉諾尊三神ノ中外宮ノ酒殿
神ハ豊宇賀能賣神ト稱シ世ニ所謂福神ナ
ミシテヲトヲ天女ハ里ト
墟嚢抄ニハ宇賀神ノ事ヲ外宮奈具社ノ天
女ノ御ヲ風ノナグ心ヲテ和
ノ謂ナリ云ヘリ里奈具トハ
又蛇ヲ宇賀ト名ケ福神ノ使者ノ事ク云ヘ
是ハ辨財天ノ頂上ニ白蛇アリ云ヲ福神ヲ
ハ奈具神女ト附會セル
或記云宇賀神ハ和州廣瀬社也又姫神トモ
ヘ里諸神ニ只姫ト奉稱ニ天照大神ヲ申スノ
社傳多シ又拷幡千々姫尊ヲ申ス事アリ云ヒ任セ

国立国会図書館　タイトル『七福神考』　請求記号 862-61
ガラス使用

く姫神とは此宇賀神を従祀せるも侍るなさ
ゑ又俗ゐ乾(イヌヰ)角に福神坐(オハレマス)と
似たる神名秘書の頭書ゐ太神宮の末社に調(ツキ)
御倉(ミクラ)神者伊弉諾(イサナキ)伊弉冉(イサナミ)尊子大宜都比賣(オホキツヒメ)神又
名保食(ウケモチ)神又ゝ稲女(ウカノメ)神とも專女(クロウメ)神とも云ふ古
書ゐ大御氣(オホミケ)都比賣(ツヒメ)神とも又ゝ屋船(ヤフネノ)神豊宇
賀能賣(カノメ)神とも稲靈(タナツノメ)とも宇賀(ウカ)神とも云ふ調(ツキノ)御
倉(ミクラ)西北角ゐ坐(オハス)る事風神の靈(ヒルメ)也云云
又世俗吉祥天女をゝ辨財天ありと思ふゝ誤
ゐる事諸天傳ゐ大功徳天と稱ゑるを是吉祥天
女ゐ主薫修道場の圖を見るに吉祥辨財の二
天をゝて佛の左右に置く吉祥ゑ佛の邊にあ
る故(ニ)吉祥最(モ)諸天の第一とゑゑるゐ世間一切
の行願を成就に因(ヨ)て題(メ)名(ヲ)隨其所求令得成就
大功徳天と稱ゑとゝふ
陀羅尼集を按ずるゐ其父ゝ圓満徳又迦其母
を訶利帝南とゝふ諸鬼王を生て男女を保護
ゑる鬼子母神ゐ主弟あ事二十八部をゝて鬼
神を領ゑる散脂大将ゐ事ゝ然らば母及姉弟共
佛法守護の大天ありて十二名號あ事ゐ略ゝ

毘沙門天

孔雀經曰北方ニ有大天王名曰多聞ト
陀羅尼集ニ曰北方天王像其身量一肘着ヶ種々ノ天衣ヲ一
左手伸ヘ臂ヲ執ル矟柱ヲ地ヲ左手屈ノ臂ヲ擎ケ於ニ佛塔ノ一長ケ一丈八
尺云云
賢愚經ニ有優婆夷誦ス經ヲ毘沙門天王従レ空而過ル乃ヶ曰ク
姉妹我與ニ汝ニ寶物ヲ可請ノ舎利弗ノ一齋ル當ニ得ル勝福ヲ云
名義集ニ韓ル沙門ル大論ニ云秦言多聞主夜叉及羅刹
又光明疏ニ云北水精揵王名毘沙門ト
索隠ニ云福徳之名聞ニ四方ニ故ニ亦翻ス普聞ト

傳燈錄ニ曰福州犹峯觀音院清換禪師傳ニ曰ク只如ヘ當
人分上ニ以一毛端ノ裏ニ有ニ無量諸佛轉大法輪ヲ於ニ一塵
中ニ現寶王刹佛説衆生説山河大地一時説未嘗聞
斷如毘沙門王始終未求ニ外寶云云
籃籃内傳ニ註ス毘沙門ヲ種々門天ともいふ所謂
此天三界ヲ餘ル程の寶を持ありまふ善根の人ま
あらえ名利の人ヲ不與之ル善人ハ少きゆへ寶多ノ
一て毎日須彌山三ツほど配焼したまふ故ま種々
門天ともいへりとあまた是を以て福神に列ね
と見えあり

大黒天

大黒天を台家の説に傳教大師逢ニ大黒天於東ノ坂本ニ短身黒面手ニ持槌足ニ踏ニ米嚢ヲ專ラ掌ル壽福ヲ云云

或記ニ云大黒ハ佛名ヲ摩訶迦羅神トイフ北方ヲ掌ルトイヘドモ北方ハ子ノ方ヲ以テ是ヲ祭ル

叡山三面大黒天三輪大黒天皆佛家ヨリ出タリ其説二義アリ一ニ西方ノ諸大寺ノ竈ノ柱ノ側ニ置キ或ハ門前ニ安置シ皆木像ニシテ或ハ二尺或ハ三尺神王ノ狀ヲ作リ金嚢ヲ取小脇ニ跼(レウソク)シテ一脚ハ地ニ垂タリ常ニ油ヲ以テ黒色ヲ拭フ號シテ莫訶歌羅(マカクラ)トイフ是大黒天也古代相承テイフ如キ大帝五衆ヲ護持シテ損耗ナカラシムト求ル者情ニアラズ但食時ニ至厨家ハ祓ヒ香火ヲ薦ムヘキ有トキハ飲食随ヒ前ニ列ヌルト二ニヲ此袖青黒色ニシテ壽無量歳ハ臂アリテ各異杖ヲ執テ大忿怒ノ形ヲ現シ髑髏(ドクロ)ヲ貫テ瓔珞トシ足下ハ地神天女アリ兩手ヲ以テ承足(ウケアシ)者アリトイフ

或記ニ云大黒天ハ軍神ニシテ佛書四天王ノ部類三

国立国会図書館　タイトル『七福神考』　請求記号 862-61

ガラス使用

十二将軍の中なあまて摩利支(井)章陀天と同列なりといえる

神社啓蒙曰今世ま敬ふ大黒の像の頭に被ふるお袋身ま服ま入物皆我邦の俗也大已貴命を大國玉命とも申せは大黒大國音相同きゆえ誤(ハカ)て

舊事紀ま稲羽(イナハ)の八上姫(ヤカミヒメ)ま通ひ給ふ時ま大已(オホアナ)貴(ムチノ)命負袋(ウ)を従(ヒ)き大黒の負袋ま似て名も亦大國玉(オホクニタマ)の命ハ即是なるむとつゝまた

又西宮の本宮を蛭(ヒル)児(コ)なるう大黒相殿の事をト(ウラ)部勘(カナ)熊(ヒロ)凞二十二社の註疏ま左ハ大已貴(オホアナムチノ)命右ハ事(コトヤ)八十(ソ)神なるとつゝまた蛭児を工ビスと申せしてて事八十(コトヤソ)神を以て工ビスとし大國玉神を以て大黒とるせう大國玉神ハ大黒天なうとハ兩部習合よ言出せる説

或記云大黒ハ北方子の神なるゆゝま子の日を以て祭ま子祭といふ子ハ十二支のをしめすく甲ま十干のをしめ故ま甲子の日ま祭ふ説ありて大黒ハ水徳故ま大黒ま水の本色なま世

俗ニ大黒神の使者は鼠なりとぞ

時亮曰抱朴子ニ云鼠壽三百歳善憑レ人而ト名ヲ曰ク仲ト能ク知ニ一年中ノ吉凶及ヒ千里ノ外事ヲ云ト按ずるに鼠かくのごとく長壽の物なればもろもろ程の深き譯ありも有ん因し只北方子の神故ニ鼠を以て使者ありと云しものなるべし

壽老人 又稱ニ南極老人ト 福祿壽

壽老人福祿壽ハ一人別名の由みえ本ハ化人也或ハ別人とも云説もあり世ニ傳ふ圖像を見レバ壽老人ハ其形端正ニして仙老の像なり鹿を愛シ福祿壽ハ長頭短形ニして鼠異相あり亀を愛シ鶴を懐ニ人とともに星宿の精靈なりとぞ

又仙老ありともふ

膾餘雜錄ニ曰萬里漆桶子題ニ福祿壽ニ云在レ彼蒼ニ則稱ス太山府君ト出ニ厚地ニ則名ニ福祿壽星ト趙宋聖明時現レ形ヲ命ニ畫工ニ圖ニ其體ヲ矣呼偉哉以ニ二十八言ヲ賦レ之ヲ曰一里千百億分身瓢様頭長髪帯ニ春ヲ尚添ニ福祿ヲ祝ニ壽命經ヲ脩杜羅是ニ也

或記ニ云俗所謂福祿壽者即チ壽老人ニ也五雜俎ニ評レ之ヲ云宋嘉祐年中壽星變ジ為ニ道士ト飲レ酒テ不レ醉ザル夫レ星之精

国立国会図書館　タイトル『七福神考』　請求記号 862-61

ガラス使用

為レ人所レ感而生レ理或有レ之豈有在レ天之宿変為レ人物下遊二人間一者上哉云云

谷響集みも福禄壽と壽老人別名同人のよし見へ

ゐり又老人星を以て壽老人ゐ當ゐ説あり

南極ハ人壽長延の應とゐゐ故ゐり其稱號を福

禄壽とゐふ又壽老人とゐふ是ゐ人民長壽祝あ

ぐの象星宿の精靈ゐまでを以て福神とゐゐりや

福禄壽の像酉陽雜俎の中邢和璞が事なの寸泰

山老師と稱ゐるもの是ゐるべし身長五尺濶サ三

尺首居二其中一ゐふ〳〵く其肖像を見ゐゐ最モ長頭

笑ノ下ニ留ノ一字ヲ脱ス

短身みゝて其形容今の福禄壽の像に符合せ

其文ゐ躬衣二緋ヲ執一笏ヲ鼓一髯ヲ大二笑ヲ角侵一耳ヲ作二劇談一多非

人間語一而元ト是上帝ニ化跡ヲ稱ス泰山老師ト云云

夫壽老人と福録壽を二人とゐゐ説あれゐそ

壽老人ハ老人星の化身ゐゐ福禄壽ハ壽星の現

ゐりとゐふべきゐ果して此二神靈ハ唯ノ延壽を

あがゐふ功を以て配合せゐ事分明ゐり一神別

名の説のごゐきバ畫圖みゐ分て二人とゐゐ事い

ふかし

或記云福禄壽の像唐人の筆ゐりとゐふ但宋の

時ゟ始て形を現じたゐ人をまバ唐の代ゟ此像
あるこ事ハこのごといつゐ人ありしに狩野某の云
唐代ゟも頭長き仙人ゟ福禄壽ゟハあらず此ノ
仙人の像ゐるゆゑしかいひしと𠮟ゐ
文會筆録ニ曰謂福星禄鹿壽鶴則其畫像或有レ鹿ト
與レ鶴也
筆墩詞ニ亦曰靜攜二白鶴一撫二玄鹿一云云
風俗記ニ老人星傳ニ曰元祐間宋哲宗京師ニ有一老
人長纔三尺身與レ首相半秀目豊髯幅巾野服ヲ以テ
遊二於市一得レ錢則飲レ叩レ其頭一則曰吾身益レ壽聖人焉

或記ニ曰福禄壽とゐふハ一神を指ゟゐあらゞ福神
禄神壽神を合せゐふあり
又曰壽老人福禄壽と𠮟ゟ南極星司命星の精化
顯の象あり今鶴を添て畫ゟどゝ實ハ鶴ゟハあら
ゞ朱雀あり亀ハ玄武ゟゐとゐへゐ
時亮云諸説を見くらゐゟ福禄壽老人星壽
老人壽星みゐ同事みゐく福禄壽老人星壽
といゑゐ𠮟星或人云壽老人の杖ゟ結びゐ者
一一軸ゟ天下の人の壽命の短長をゐゐ司
命の巻ありといゑ星

国立国会図書館　タイトル『七福神考』 請求記号 862-61
ガラス使用

又一說有里橘窻茶話曰獨麟和尚云曾在美濃慈溪寺得交大領智敎於結制之際二人皆琉球人也時堂上有福祿壽真形二僧為之踴躍歡喜不已曰我國每代必生一異人身首相半笑容可掬與堂上所稟毫髮不爽稱曰福祿壽以為國瑞若產於民間取而養千宮中雖在粉白黛綠之中一少不動心醫卜百家書無不通曉今呼稱福祿壽者名曰壽水正百餘歲婬有童顏

又鹿を愛せる事ハ

述異記曰鹿千年化為蒼又五百年化為白又五百年化為玄漢成帝時中山人得玄鹿烹而視之骨皆黒色仙者說玄鹿為脯食之壽二千歲

埤雅曰鹿乃仙獸自能樂性六十年必懷璃于角下班痕紫色行則有涎不復急走云

殷仲堪云鹿以白色為正といへどもかくのごく長壽の獸ゐる故ゐ鶴龜と同一取合せゐ

布袋和尚

傳燈錄廿七有傳　明州奉化縣ゐ布袋和尚と云ふあり其形材腮腹以杖荷一布袋供身之具盡貯囊中入鄽肆聚落見物輒乞或醯醢魚菹才

国立国会図書館　タイトル『七福神考』　請求記号 862-61
ガラス使用

接ノ入レ口ニ分ケ少シ許リ投ス嚢中ニ自ラ稱ノ名ニ契此ト時ニ號長汀子布袋師ト蓋シ彌勒ノ化身ニ也梁ノ貞明三年丙子三月示ス滅ノ辭世偈ニ云

彌勒眞彌勒　分身千百億
時々示ニ時人ニ　時人自ラ不レ識ラ

偈畢テ安然トシテ化ス其後他州ニ有レ人見レ之ヲ亦タ負フニ布袋ヲ而行ク於レ是ニ四衆競テ圖ニ其像ヲ云々

三佛傳偈文あるに分身作化身時人作世人トあり我未み三佛傳の語を出ず事類全書云布袋と稱するその四人あるに唐末僧契此前文に記ス宋世み僧了明と云ふあり其形頽肚大道貌豊碩世ニ稱ス布袋ト云々元ノ世み布袋と云ふもの有るまた再来あるに云ふ元ノ末み秦陽張氏ノ男容貌異常ニ膨脝擁腫ヲ見レ人ヲ嬉笑恰似ニ俗所レ畫ノ布袋ニ云々三佛傳曰大師其族氏名字を知ものなし自ラ契此をもて長汀子布袋和尚と稱ニ寢食常處なし杖錫ニ布袋を外一物もなし且十八人の小兒ありて譁ク(カマビス)ニ之れを逐ふ亦此小兒誰人の子何ニよる来ると云ふ又曰夏日和尚溪水中み浴し衣を岸

国立国会図書館　タイトル『七福神考』　請求記号 862-61
ガラス使用

上ヶ脱置バ群童戯ヶ於の衣服を奪走師裸ゐく
ゐ主を逐往来の人聚てこれを観を竊ゐ其陰蔵
を見ゐみ撞真のおとしそ
又曰師之在閩中有陳居士者館遇甚謹及遊而淅
與之別居士問曰和尚何姓何年何月日生法臘幾何
師曰你莫道我姓李二月八日生只這布袋與虚空
齊年中畧貞明三年三月三日示寂于岳林寺廡下
盤石上師無恙時鎮亭長以下師不事事遇則毎加詣
潘且奪其袋焚之明日師荷袋去未如詹如此三奪
三仍詹雖亭長亦心異之至是買棺使殮以贖懺其

過畢者雖衆不能挙別有薫氏素敬師以棺易之畢
不加衆而軽挙若羽於是邦人設大會建塔於封山
之原其山皆巌石石之窪穴皆大師之遺跡也有卓
錫處有置鉢處置鉢之穴其深浅小大如其鉢而水
常盈其中雖大旱不少涸可異也

時亮按布袋和尚常ヶ小童を愛せゐよし言傳へ
畫ヶも多く幷童兒を添てかゝ子遊るといへ
るされども三佛傳ヶ據ば十八人の童兒を佛
の化身ゐらめ布袋を以て福神とゐ事其説
明證ふし國俗圖畫をゐ所を見ゐ布袋を荷

国立国会図書館　タイトル『七福神考』　請求記号 862-61
ガラス使用

頃大黒の像み似て笑を含て閙々なり故を以て福神と稱ふれるべし只異人のミ今爰に三佛傳の圖を寫して好事者の一助とあらべ

恵比須

恵比須大黒天の配祀古来より其本據未詳恵比須を蛭兒とす是亦本説不明大黒を以て大國主命とするハ誤りみくに天ある事分明その名義相類せる故み音通附會せるなり

神代巻み蛭兒ハ日ノ神月神の次ま生まれと云ふ故ま三郎とふふぉどは是亦俗説あり

日本紀問荅に此神三歳まで脚不立よりて石樟船み乗て放棄らるゝまよ恵比須の號あり

の義あり

神代講述抄み蛭子と奉稱事ハ此神不具の御體ふるを以て流産血みまをるゝの形蛭のごとくありまるせしゆへとふ

神皇正統録みも蛭子ハ西宮大明神みく夷三郎是也此神ハ海を領したまふと也此神放されたまふ所を神代まハ只海原とのミあり

神代傳受記ま西宮澳夷社ハ郎太田の所變ある
蓋し衆蛭兒吟心而忽現漁翁云云
なれハ火々出見尊の海濱みさはよいたまふ時
丹事勝神亦名ハ塩土翁と現じ導せし事あり此
說古記にあるバみや大黒を猿田彦命ありといふ
神の所變ある又恵仏須も猿田彦と大黒を事
勝神とふも共に一神別號の傳もあり此間の

神ハ(命)ノ誤り

說區々みて辨しがたし又員俗の像を取て大巳貴命とせば恵比須ハ金毘羅神たるべきう如何と
ふまバ金毘羅の像日光山みあるて烏帽子を着袴を着て庚居體ある也羅山氏の記み見えたるといへる
獻山にあるも又同じとい
神社啓蒙丹蛭兒吟心の
太田命を庚とし馮庚河伯名とし磯ま釣し現ふ時
の澳の別稱とに世間恵比須と蛭子と混合せる
蛭兒ハ澳の庚社ましてま恵仏須ハ蛭兒吟心の時
出現の神太田命の所變ある
といへる

合(同)ノ誤り

国立国会図書館　タイトル『七福神考』　請求記号 862-61
ガラス使用

源平盛衰記に平康頼流人の條ゝ硫黄島を云ゝ事
五十町許りゟ離山あり紫岳と號ス彼山ゟ東三郎
の祠あり岩殿と稱ス康頼の祝詞せし事あり
又西宮に鎮座の事神記の舊傳ゟ定家卿の
假名遣ゟを惠比須の字多し浮囚人四夷海邊人
を和俗をべゝエビスと蛭兒を指てエビス
とゝふ事上古ゟハあらざるあり俗にされを
廣田社の末社ゟ戎の社とゝふ
西宮戎と見えゝり廣田社
二十四番の歌合ゟ安心法師の歌に

世を救ふ名ひまの社神の誓ひはよハゝゝしき物
を救ゝぬ方ゝ
藻塩草ゟゝ西宮海老主世を救ゝとよむとあるさ
き歌合の事をいゝゟ福神ゆゝゟ世をゝくふと
よむる歟ゝし
日本紀通證ゟ拾玉集を引て云慈鎮の歌に
西の海ゟ風ゝ吹せよゝゟゝ戎ゝ有ゝ乃ゟゝ
やゝひまのさふらゟゝ
神代巻天孫降臨章ゝ曰大巳貴對ゝ曰當ゝ問我子ゝ然後
將ゝ軍ゝ是時其子事代主神遊行ゝ在ゝ出雲國三穂之崎ゝ

在ノ下ニ於ノ字ヲ脱ス

以テ釣魚ヲ為樂ト云云

一條兼良公日本紀釋ニ云事代神代知ル也

神名式ニ攝津國八部郡長田神社アリ又阿波國勝浦郡ニ事代主神社アリ續日本紀ニ勝浦郡領長貴人立云云三代實録ニ云節婦勝浦郡人長直大富貴也姓氏録ニ云長の公ハ事代主命の後也云云神代口決ニ男神ナル雖レ不レ見ニ此書ニ一女三男ト云云古ヘヨリ男神とも女神とも神記ニハ不レ見ヘ此ノ一女三男とあるも本紀ニみえなくて神皇系圖に始メて見ヘたり但神皇系圖ハ聖徳太子の撰ニて舊事紀ノ

紀の第一巻ニ蛭兒ハ男神ときたいゆまでも土徳の事ヨリ思ヘハ陰陽相對の神ニ似て還ク陰陽不定の神といふべきヲ是ハ陽神陰神不定よリ生またまふ神ゆえニありひるごとはゝ云ふ事ニあリ

袖中抄無名抄ニみえ蛭兒の五體不具の事歌ニもよめるとあルとを爰ニ略ニ畢竟ハ何とおく柔弱にして生またまひしゆえニ脚立せ給ハぬまゝニ古傳の儘ニ解て穏なるべし世久しく蛭子を エビスと云事ハ吉野拾遺ニ将軍の宮吉野河ニ鮭

飼の逍遥あり一時に左衛門尉康方(ヤスカタ)と云ふ人水練の達者みそ烏帽子直衣をあがら水よ入り久しくして鱸と鯉と我左右の脇よ挟(さ)あがり岩上よ蹲踞せし體を蛭兒のさゝやきて岩上よ居けるよ人々おと訝くと書たり

或說曰人王三十四代推古帝九年三月聖德太子始(ハジメ)て市賣買(イチカヒ)の術(ワザ)を令(シ)知(メ)又誓(チカヒ)蛭兒神(ヒルコノカミ)を為(シ)商買鎮護神(アキナヒノシヅメマモルカミ)後世以(モ)て恵比須(エビス)崇(アガメ)福神(サイハヒノカミ)と自(ヨリ)是(コレ)始(ハジマ)云(イヘリ)此文年代記よ見へたりとぞ

時亮曰負袋の形を彫て大黒真像とし奥を釣(ツル)の形を彫て蛭兒の真像として一小壇よ安置して家々よ祭る大黒負袋の事ハ大國主神と音通を取(トル)なとの據未詳(イマダツマビラカナラ)後来大國神の子事代主神魚を釣(ツル)の事その據ありたるよあらじ蛭兒主神魚を釣(ツル)の事を以て大國神の兄此事代ハ十神とも云(イヘ)ハ其名云(イヘ)とし記(シル)さゞる以ておもふに混(マガ)ふ事なし凡(オヨソ)恵比須大黒よ就て四の訛(アヤマリ)あり蛭兒三郎を以て夷三郎とせ是(コレ)一也事代主神を以て事代八十神と是二なり蛭兒事代主事代八十神を福神とするハ證據あり是三ハ

国立国会図書館　タイトル『七福神考』　請求記号 862-61
ガラス使用

14285

至大國神を以て大黒神とは是し四な里大國神を以て大黒神とするものハ傳教大師ま里始りて妖巫妄祝ふまに就て右の如き訛りを言ひ出せるな里諸天傳ふも其ほかさとふ事各異也といへども皆ふまに三寶を守護する福神な里其外壽星權化の散聖諸神所長功德靈驗ましませバ斯ゝ言ひなせし訛のかるべし

福神考 終

国立国会図書館　タイトル『七福神考』　請求記号 862-61

ガラス使用

862
61

国立国会図書館　タイトル『七福神考』 請求記号 862-61

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『七福神考』　請求記号 862-61

ガラス使用